

令和4年3月29日

世田谷区立八幡中学校
校長 山田 勝基 様

世田谷区立八幡中学校
学校関係者評価委員会
委員長 田中 彰夫

令和3年度世田谷区立八幡中学校 学校関係者評価結果について
(前年度の改善方策について実行した改善結果を含む)

本年度の学校関係者評価の結果を分析・検討し、並びに自己評価の報告を受け、以下のようにとりまとめましたので、ご報告いたします。

今回の学校関係者評価委員会の報告を次年度の学校経営にご活用いただき、八幡中学校がなお一層発展されることを委員会一同祈念いたします。

1 調査結果の概要

昨今の環境下、保護者・地域の回収率は、78%、48%と、残念ながら昨年度より低くなった。

各設問回答から『肯定的評価』(A「とても思う」・B「そう思う」)と『否定定期評価』(C「あまり思わない」・D「思わない」及びE『分からない』)に分けてその割合を比較してみると、おおむね『肯定的評価』が多かった。また経年変化については、コロナ禍で今年度も厳しい評価の項目も一部あるものの、もともと肯定的評価の高い項目においてもさらに評価ポイントが伸びた項目や、厳しい状況ながらも改善が見られる項目などがあり、学校側の継続的な努力が結果としてあらわれている様子が見受けられる。

昨年度の学校関係者評価の結果を受け、本年度の改善・努力を行った項目について考察し、本年度どのように評価されているのか、結果とともに分析する。また、昨年の評価に比べ数値的に低くなった項目や『わからない(E)』の比率の高かった項目については、内容をよく吟味し、さらに改善・努力することが引き続き望まれる。

2 調査結果の詳細

(1)保護者の評価

①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

i) 全44項目（共通項目）中

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	5項目
5割を超えているもの	5項目
6割を超えているもの	11項目
7割を超えているもの	14項目
8割を超えているもの	7項目
9割を超えているもの	2項目

※参考 昨年度（R2年評価）41項目

5割を超えなかったもの	2項目
5割を超えているもの	5項目
6割を超えているもの	7項目
7割を超えているもの	10項目
8割を超えているもの	15項目
9割を超えているもの	2項目

ii) 9割を超えている項目

8-(1)「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している」90.2%

8-(2)「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」90.2%

②昨年度対比（比較できる質問項目数「32項目」）

i)『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

＜増加（向上）した項目数＞9項目、＜減少（悪化）した項目数＞23項目

＜ベスト2＞

1-(4)「本校は、映像やタブレットなどのICTを利用し、わかりやすい授業をしている（R2の項目：本校は、映像やタブレットなどのICTを利用している）」19.8ポイント

6-(3)「子どもは、家で宿題やe-ラーニングなどで学習している。」16.3ポイント

＜ワースト2＞

6-(5)「本校は、近隣の(幼稚園)小・中学校で構成する「学び舎」の(幼稚園)小学校に行ったり、(幼児)小学生が来たりする機会がある。」-14.6ポイント

13-(1)「八幡中学校は地域運営学校として地域と協力して子どもをそだてている。」

-11.6ポイント

ii)『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

＜減少（改善）した項目数＞10項目、＜増加（悪化）した項目数＞22項目

＜ベスト2＞

1-(4)「本校は、映像やタブレットなどのICTを利用し、わかりやすい授業をしている（R2の項目：本校は、映像やタブレットなどのICTを利用している）。」

-21.5ポイント

6-(3)「子どもは、家で宿題やe-ラーニングなどで学習している。」-14.0ポイント

＜ワースト2＞

3-(3)「先生は、子どもの意欲を大切にしている。」5.7ポイント

6-(5)「本校は、近隣の(幼稚園)小・中学校で構成する「学び舎」の(幼稚園)小学校に行ったり、(幼児)小学生が来たりする機会がある。」5.1ポイント

(2) 地域の方の評価

①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

i) 全15項目中『肯定的評価』

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	0項目
5割を超えているもの	2項目
6割を超えているもの	2項目
7割を超えているもの	1項目
8割を超えているもの	5項目
9割を超えているもの	5項目

※参考 昨年度（R2年評価）15項目

5割を超えなかったもの	0項目
5割を超えているもの	0項目
6割を超えているもの	3項目
7割を超えているもの	4項目
8割を超えているもの	4項目
9割を超えているもの	4項目

ii) 9割を超えている項目

- 1-（1）「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」93.9%
- 3-（1）「学校からのお知らせや（学校だより）などにより、学校の様子がわかる。」100%
- 4-（1）「学校の重点目標が明確である」94.1%
- 6-（1）「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」94.1%
- 7-（1）「八幡中学校は地域運営学校として、地域と協力して子どもを育てている。」94.1%

②昨年度対比（比較できる質問項目数「15項目」）

i)『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

＜増加（向上）した項目数＞11項目、＜減少（悪化）した項目数＞4項目

＜ベスト2＞

- 4-（2）「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」13.2ポイント
- 4-（1）「学校の重点目標が明確である」8.4ポイント

＜ワースト2＞

- 3-（3）「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子がよくわかる。」
-19.9ポイント
- 5-（2）「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」-7.5ポイント

ii)『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

＜減少（改善）した項目数＞6項目、＜増加（悪化）した項目数＞8項目、＜変化なし＞1項目

＜ベスト2＞

- 5-（3）「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」-2.6ポイント
- 4-（1）「学校の重点目標が明確である」-2.4ポイント

＜ワースト2＞

- 2-（1）「学校行事の内容は充実している」6.0ポイント
- 5-（2）「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」4.3ポイント

(3) 生徒の評価

①『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の割合

i) 全33項目中『肯定的評価』

『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』

5割を超えなかったもの	2 項目
5割を超えているもの	1 項目
6割を超えているもの	2 項目
7割を超えているもの	12 項目
8割を超えているもの	15 項目
9割を超えているもの	1 項目

※参考 昨年度（R2 年評価）33項目

5割を超えなかったもの	2項目
5割を超えているもの	1項目
6割を超えているもの	3項目
7割を超えているもの	14項目
8割を超えているもの	12項目
9割を超えているもの	1項目

ii) 9割を超えている項目

5-（1）「先生たちは、生徒にいていねいに指導している。」91.3%

②昨年度対比（比較できる質問項目数「30項目」）

i)『肯定的評価（A「とても思う」・B「そう思う」）』の変化

＜増加（向上）した項目数＞19項目、＜減少（悪化）した項目数＞10項目、＜変化なし＞1項目
＜ベスト2＞

8-（1）「朝の読書活動をすることで、気持ちを落ち着かせることができる。」12.6ポイント

1-（5）「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。」10.6ポイント

＜ワースト2＞

8-（5）「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある。」-7.0ポイント

8-（9）「私は自分から先生へ進路や将来の仕事について相談している。」-5.7ポイント

ii)『否定的評価（C「そう思わない」・D「思わない」）』の変化

＜減少（改善）した項目数＞15項目、＜増加（悪化）した項目数＞15項目、
＜ベスト2＞

8-（1）「朝の読書活動をすることで、気持ちを落ち着かせることができる。」

-15.2ポイント

6-（5）「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。」-10.7ポイント

＜ワースト2＞

7-（1）「部活動は、楽しい。」12.1ポイント

8-（5）「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある。」5.4ポイント

3 分析に関するコメント

(1) 学習指導について

①保護者の評価

- 4項目全般に50～60%の肯定的評価が得られている。その中で、1-(4)に対する評価が顕著に改善している。
- 1-(1)「子どもが考えることや、課題を解決することを大切に授業をしている」は、第1学年47%、2学年56%、3学年61%と学年が高い程、『肯定的評価』が高くなっている。
- 1-(2)「黒板の書き方やプリントなどを工夫している」は、概ね50%程度の『肯定的評価』を得ており、目立った否定的評価は見られないが、わからないが40%程度あった。
- 1-(3)「考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある」は、64%の『肯定的評価』を得ており、特に2年生保護者は77%の高い『肯定的評価』を示している。
- 1-(4)「映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の『肯定的評価』は20ポイント上昇(『否定的評価』がそのまま20ポイント下落)している。
- 独自項目13-(3)「本校では、授業をとおして、子どもたちに学力がついている」は73%の『肯定的評価』を得ている。特に第1学年は81%の高い『肯定的評価』である。
- 独自項目13-(4)「通知表で評価されたことは、納得できる」は79%の『肯定的評価』と、昨年度の71%から改善している。
- 独自項目13-(5)「八幡中学校は「確かな学力を育成する学校」として放課後補習教室や質問教室、検定対策講習、土曜講習会(3年)、夏季補充教室、テスト前の質問教室など、学習する機会を提供していることを1つでも知っている。」は、昨年に続いて86%と高い『肯定的評価』を得ている。

②生徒の評価

- 当該5項目全てにおいて80%台の大変高い『肯定的評価』を獲得している。特に1-(2)、1-(4)、1-(5)において、『とても思う』の強い『肯定的評価』を割合が増えており、評価が大きく改善していることが見える。
- 1-(1)「先生は、課題について、自分で考えたり、友人と考えたりする時間を授業の中でとっている。」の『肯定的評価』は89%と高水準である。
- 1-(2)「先生は、黒板の書き方やプリントなどを工夫している。」の『肯定的評価』は87%、1-(3)「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」の『肯定的評価』は82%と、いずれも高水準で昨年度から横ばいをキープしている。
- 1-(4)「先生は、映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」の『肯定的評価』(82%)、1-(5)「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。」の『肯定的評価』(83%)は、いずれも昨年度に比べ10ポイントの改善を見せた。
- 独自項目8-(1)「朝の読書活動をすることで、気持ちを落ち着かせることができる。」は78%の『肯定的評価』を得ている。昨年比12%ポイント上昇しており、特に『とても思う』が20ポイントも増加している。
- 独自項目8-(2)「自分の意見が活かされていると感じている。」の『肯定的評価』は63%、独自項目8-(3)「通知表の評価は、納得できる。」の『肯定的評価』は78%、独自項目8-(4)「先生は、誰に対しても平等に接してくれる。」の『肯定的評価』は72%で、いずれも昨年より2～4

ポイント改善している。

- 独自項目8-(6)「英検・数検・漢検などの検定を1つ以上受検している、または受検しようとしている。」の『肯定的評価』は75%と、昨年度比横ばいである。
- 独自項目8-(7)「学校の放課後補習教室や質問教室、検定対策講習、土曜講習(3年生)、夏季補充教室、テスト前の質問教室など学習する機会を設けていることを1つでも知っている。」の『肯定的評価』は89%と高水準である。

③保護者と生徒の評価の比較

- 学習指導についての共通項目においては、その『肯定的評価』の割合が生徒と保護者では30ポイント前後の乖離があり、例年の傾向を踏襲している(保護者の方が低い評価をしている)。
- 生徒、保護者両者において「映像やタブレットなどのICTを利用し、分かりやすい授業をしている」の改善は顕著である。
- 独自項目における「通知の評価への納得感」は、保護者79%(13-(4))、生徒77%(8-(3))とともに高い『肯定的評価』を得ている。

(2)生活指導について

①保護者の評価

- 2-(1)「本校は、学校での過ごし方のルールについて子どもに考えさせる指導をしている」は『肯定的評価』が70%と昨年から変わらない水準である。
- 子どもの理解を問うた2-(2)「本校は、教員が指導した学校での過ごし方にルールについて子どもが理解している」も76%の『肯定的評価』を得ている。

②地域の評価

- 1-(1)「通学している子どもたちは、交通ルールなどを守っている」は昨年度より3ポイント上昇して94%の高い『肯定的評価』を得ており、『否定的評価』はゼロとなっている。

③生徒の評価

- 学校での過ごし方やルールについて問うた3項目「生徒の行動」「先生の指導」「生徒の理解」いずれについても80%台の高い『肯定的評価』を得て、しかも昨年度よりも改善している。
- 学年別で見ても、ほとんどの学年・項目で80%以上の『肯定的評価』を得ている。
- 2-(1)「私は、学校での過ごし方やルールについて考えて行動している。」の『肯定的評価』は昨年度よりも2ポイント上昇し89%と高水準であった。
- 2-(2)「先生は、学校での過ごし方やルールを生徒に考えさせて指導している。」の『肯定的評価』は昨年度よりも6ポイント上昇し86%と高水準であった。
- 2-(3)「先生が指導した学校での過ごし方やルールについて理解できる。」の『肯定的評価』は昨年度よりも7ポイント上昇し83%と高水準であった。

④保護者と地域と生徒の評価の比較

- 「生徒の行動」については、生徒自身の『肯定的評価』（2-（1））は89%と高い自己評価であり、それに呼応するように地域（1-（1））も94%の高い評価をしている。
- 「先生の指導」については、生徒の『肯定的評価』（2-（2））は6ポイント上昇し86%となっているものの、保護者の『肯定的評価』（2-（1））は横ばいの70%であり、保護者にまだ十分伝わっていない様子がうかがわれる。
- 「生徒の理解」については、生徒の『肯定的評価』（2-（3））は7ポイント上昇し83%となっているものの、保護者の『肯定的評価』（2-（2））は横ばい（微減）の76%であり、保護者は子供に対して厳しめに捉えている様子がうかがわれる。

（3）学校行事について

①保護者の評価

- 3-（1）「学校行事は、子どもにとって楽しい」、3-（2）「学校行事は、子どもにとって達成感がある」の2項目については昨年度と同水準の87%、86%と高い『肯定的評価』を獲得している。
- 3-（3）「先生は、子どもの意欲を大切にしている」は昨年より『肯定的評価』が7ポイント下落し77%となっており、『否定的評価』も若干上昇している。
- 独自項目13-（2）「学級や学年はお互いに助け合いまとまりがある集団として成長している」の『肯定的評価』は新型コロナの影響で学校行事が例年通り開催できない中で10ポイント程度下げているが、77%と依然高い評価を得ている。

②地域の評価

- 2-（1）「学校行事の内容は充実しているの」『肯定的評価』85%、2-（2）「事前の準備や当日の案内などで地域への配慮がある」82%とともに80%台の高い『肯定的評価』であるが、昨年と比較して『とても思う』から『思う』に変化している。

③生徒の評価

- 3-（1）「学校行事は、楽しい」、3-（2）「学校行事は、達成感がある」、3-（3）「先生は、生徒の意欲を大切にしている」の3項目全てにおいて80%台後半の高い『肯定的評価』を得ており、各学年別でも各項目いずれも80%以上の『肯定的評価』を獲得している。
- 独自項目8-（5）「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある。」の『肯定的評価』は7ポイント程度下げているが、82%と依然高い評価を得ている。

④保護者と地域と生徒の評価の比較

- 学校行事に関しては本年もコロナ禍で様々な制約を強いられていたにも関わらず、生徒のみならず保護者や地域からも非常に高い『肯定的評価』を獲得している。
- 「先生は、子ども（生徒）の意欲を大切にしている」の『肯定的評価』は、昨年度は保護者と生徒ともに84%であったが、今年度は生徒は2ポイント向上して86%になったものの、保護者は76%に低下した。
- 独自項目における「学級や学年はお互いに助け合い、まとまりがある」では高い『肯定的評価』なが

らも、保護者が10ポイント（(13-(2))、生徒が7ポイント（8-(5)）減少し、『否定的評価』がわずかに上昇している。

（4）キャリア教育について

①保護者の評価

- 4-(1)「本校は、キャリア・パスポートの目標について子どもに考えさせる指導をしている。」の『わからない』が41%あった。
- 4-(2)「本校は、子どもの進路や将来のことについて考える授業がある。」の『肯定的評価』は60.1%、4-(3)「本校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」の『肯定的評価』は53.4%とあまり高くない。

②生徒の評価

- 4-(1)「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について考えて行動している。」は1年生30.5%、2年生35.5%の『否定的評価』であった。
- 4-(2)「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」の『肯定的評価』は、1年生は66%だが2・3年生で80%を超えている。
- 4-(3)「学校は、進路や将来の仕事に関する情報を提供している。」の『肯定的評価』は学年が上がるにつれ高くなり、第3学年で80%を超えている。

③保護者と生徒の評価の比較

- 昨年度より導入されたキャリア・パスポートだが、保護者も生徒も低い評価となっている。保護者にまだあまり浸透しきれていないことが伺える。

（5）教職員（先生）について

①保護者の評価

- 5-(1)「本校は、丁寧に指導している。」と5-(2)「本校は、子どもや保護者が相談しやすい。」の『肯定的評価』は全体で70%を超えており、先生に対する信頼度が高いことを示している。

②生徒の評価

- 5-(1)「先生たちは、生徒にいていねいに指導している。」の『肯定的評価』は全体で91%と、かなり高い。
- 5-(2)「先生たちは、生徒が相談しやすい。」の『肯定的評価』は5-(1)に比べるとやや下がるが、それでも73%と高評価である。

③保護者と生徒の評価の比較

- 生徒の5-(1)の設問に関しては、昨年度も『肯定的評価』82%の高い評価であったが、今年度はさらに9ポイントも評価が上がり、ほとんどの生徒が丁寧な指導を受けていると感じている。保護者も特に1年生の評価が高い。ただ、相談しやすさ、という点では保護者も生徒もやや『否定的評

価』が多くなっている。

（6）全般について

①保護者の評価

- 6-（1）「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の『肯定的評価』は85%、6-（2）「本校の学校生活は、子どもにとって達成感がある。」の『肯定的評価』も78%あり、楽しい学校生活を送っていると感じている保護者が多い。
- 6-（3）「子どもは、家庭で宿題やeラーニングなどで学習している。」の『肯定的評価』は63%で、昨年より16ポイント増加している。
- 6-（4）「本校は、近隣の（幼稚園）小・中学校で構成する「学び舎」の（幼稚園）小学校に行ったり、（幼児）小学生が来たりする機会がある。」は『否定的評価』23%、『わからない』42%と、評価が低い。
- 6-（5）「本校の教育活動は、子どもの成長につながる。」の『肯定的評価』は82%と高い。
- 6-（6）「子どもは、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」の『肯定的評価』は80%あり、健康に対する意識が高いことが伺える。

②生徒の評価

- 6-（1）「学校生活は、楽しい。」、6-（2）「学校生活は、達成感がある。」は共に『肯定的評価』が80%を超えている。
- 6-（3）「私は、家庭で宿題やeラーニングなどで学習をしている。」は30%が『否定的評価』である。
- 6-（4）「私は、塾で学習している。」は1年生40%、2年生56%、3年生72%と学年が上がるにつれ通塾率が高くなっている。
- 6-（5）「学び舎の小学校に行ったり、小学生が来たりする機会がある。」の『否定的評価』が55%あり、コロナ禍による交流の少なさが影響していると思われる。
- 6-（6）「私は、体力の向上や健康な生活に取り組んでいる。」は学年による差がほとんどなく、『肯定的評価』75%ほどある。

③保護者と生徒の評価の比較

- 学校生活について、保護者も生徒も評価が高い。楽しい学校生活を送っていることを示している。
- 家庭での学習について、昨年度の『肯定的評価』は生徒（61%）と保護者（46%）との間で15ポイントの乖離があったが、今年度はほぼ同じ結果であった。
- 昨年度に引き続き、学び舎の小学生との交流はほとんどなかったため、6-（5）の評価は低かった。次年度は、コロナ禍が収束して以前のような交流ができるようになることを期待したい。

（7）部活動について

①保護者の評価

- 7-（１）「部活動は、子どもにとって楽しい。」の『肯定的評価』は82%、7-（２）「部活動は、子どもにとって達成感がある。」の『肯定的評価』は76%と高評価であった。学年別では共に1年生保護者の評価が一番高い。

②生徒の評価

- 7-（１）「部活動は、楽しい。」7-（２）「部活動は、達成感がある。」の『肯定的評価』は、3年生でやや下がるが全体で80%弱と高評価である。

③保護者と生徒の評価の比較

- 昨年同様、保護者も生徒も80%程度の『肯定的評価』で、部活動が充実していることが伺える。

（８）情報提供について

①保護者の評価

- 8-（１）「本校は、様々な便りなどで、保護者に情報を提供している。」、8-（２）「本校は、ホームページやメールなどで、保護者に情報を提供している。」の『肯定的評価』はいずれも90%と評価が高い。
- 8-（３）「「学び舎」の区立（幼稚園）小学校について情報が提供されている。」は『否定的評価』が18%、『わからない』が33%と評価が低い。
- 8-（４）「本校は、学校公開や保護者会などで、生徒の様子が分かる。」の『肯定的評価』は65%で、同じコロナ禍であった昨年度の76%より11ポイント減少している。

②地域の評価

- 3-（１）「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。」は100%の『肯定的評価』であった。
- 3-（２）「「学び舎」の活動について、情報が提供されている。」の『否定的評価』が12%であった。
- 3-（３）「学校公開や道徳授業地区公開講座などで学校の様子が分かる。」については、『肯定的評価』が52%と、昨年度に比べ20ポイント減少している。
- 3-（４）「学校のホームページに、学校からのお知らせや学校生活の様子が分かる情報が掲載されている。」は『肯定的評価』85%と昨年度より3ポイント増加、また『否定的評価』は今年度も0%と、地域においてもホームページからの情報入手が浸透してきていると言える。

③保護者と地域の評価の比較

- 今年度は保護者会や学校公開などが開催されず、保護者や地域の方が学校に出向く機会が減少したため、評価が下がった。一方、紙媒体・デジタル媒体での情報提供については共に評価が高く、特に地域のホームページの評価が上昇していることから、ホームページは充実しており、閲覧する地域の方も増えたと思われる。

（９）学校運営について

①保護者の評価

- ９-（１）「本校は、保護者に指導の重点を伝えている」の『肯定的評価』は６５％で、『わからない』が１７％である。昨年の設問は「保護者に学校の教育方針を伝えている」で『肯定的評価』が８２％であることを考えると、「教育方針」という大枠は伝わっているが、より具体的な「指導の重点」は伝わりにくいのかかもしれない。
- ９-（２）「本校は、教職員が指導の重点を理解して教育活動に取り組んでいる」の『肯定的評価』は６６％で、『わからない』が２４％である。

②地域の評価

- ４-（１）「学校の重点目標が明確である」の『肯定的評価』は９４％と高い。
- ６-（２）「地域の意見に対して、学校はていねいに説明・対応している」の『肯定的評価』は８５％で、昨年よりも１３ポイント増加している。

③保護者と地域の評価の比較

- 質問の内容に少し違いがあるので比較しにくいですが、保護者と地域の視点に違いがあるのかかもしれないと思える。

（１０）家庭と学校の連携

保護者の評価のみ

- いずれの項目も『肯定的評価』が５０％～６０％と低く、項目によっては『わからない』が２５％ほど占めており、コロナ禍の影響が考えられる。
- １０-（１）「私は学校公開にすすんで参加している。」の『肯定的評価』は６２％、『否定的評価』が２８％である。
- １０-（２）「私は、学校行事、PTA や地域主催の行事などにすすんで協力している。」の『肯定的評価』は６１％、『否定的評価』が２９％である。
- １０-（３）「私は、今年度の学校の指導の重点を理解している。」の『肯定的評価』は４８％、『否定的評価』は２７％、『わからない』は２６％である。
- ９-（１）「本校は、保護者に指導の重点を伝えている」（『肯定的評価』は６５％）と、１０-（３）「私は、今年度の学校の指導の重点を理解している。」（『肯定的評価』は４８％）を比較すると、伝えているが理解できていないという点で１７ポイントの差がある。

（１１）地域との連携について

①保護者の評価

- １１-（１）「本校は、地域の人や施設を教育活動に生かしている。」の『肯定的評価』は５６％、『わからない』が３５％である。
- １１-（２）「本校は、地域の活動などに協力的である。」の『肯定的評価』は６５％、『わからない』

が26%である。

- 11-（3）「本校は、地域に情報を提供している。」の『肯定的評価』は56%、『わからない』が35%である。
- 独自項目13-（1）「八幡中学校は地域運営学校として地域と協力して子どもをそだてている。」の『肯定的評価』は67%、『わからない』が25%である。昨年度に比べ、『肯定的評価』が12ポイント減少している。
- いずれの項目も、55～65%程度の『肯定的評価』と25～35%程度の『わからない』にほぼ2分される。また、『肯定的評価』はいずれの項目も昨年度より10ポイント程度減少している。2年続けて行事ができなかったことが要因と思われる。

②地域の評価

- いずれの項目も、保護者同様に58～68%の『肯定的評価』と20～35%程度の『わからない』にほぼ2分される。
- 5-（1）「地域の人や施設を教育活動に活かしている」の『肯定的評価』は68%、『わからない』が21%である。
- 5-（2）「学校協議会や合同学校協議会が役割を果たしている」の『肯定的評価』は58%、『わからない』が33%である。
- 5-（3）「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」の『肯定的評価』は67%、『わからない』は24%である。

③保護者と地域の評価の比較

- 全体的に『わからない』の評価が30%近くあり、「地域運営学校」の認知度はまだ低い。

（12）学校の安全性について

①保護者の評価

- 12-（1）「本校は、安全な学校づくりを進めている。」の『肯定的評価』は83%と、昨年度とほぼ同じである。
- 12-（2）「本校は、避難訓練やセーフティ教室などで、子どもに安全に関する指導をしている」の『肯定的評価』は77%と、昨年度より7ポイント減少した。
- 12-（3）「本校は、自然災害時の対応を子どもや保護者に提供している」の『肯定的評価』は75%と、昨年度とほぼ同じである。

②地域の評価

- 6-（1）「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」の『肯定的評価』は94%と極めて高い。
- 6-（2）「学校は、安全性を高めようと地域と協力している」の『肯定的評価』は82%である。

③保護者と地域の評価の比較

- 学校の安全性については保護者も地域も『肯定的評価』は高く、学校の努力が伝わっている。

4 昨年度の評価で改善・努力した点

【学校生活について】

昨年度に比べ感染症の状況は改善しているが、現在も校内での防止対策は日々行っている。今年度は生徒の安全を第一と考え、同時に学校生活の更なる充実を目指してきた。

学校関係者評価アンケートにおいて「学校生活は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は 86.7%、また、「学校行事は、楽しい。」の生徒の肯定的評価は 89.3%であり、どちらも高い数値であった。1年以上にも及ぶ感染症対策という制限のある学校生活を送りながらも、できる範囲の中で楽しく、前向きに取り組んでいる姿勢があると捉えることができる。また保護者の同様の項目である「本校の学校生活は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は 85.4%、「学校行事は、子どもにとって楽しい。」の肯定的評価は 86.6%と、生徒と同様に高い数値であった。長きにわたり、制限のある学校生活を送っていながらも、本校の教育活動に一定の理解を示してくださったことは大変ありがたいことである。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○生徒の安全を第一に考えた学校運営。

- ・毎日の健康観察（検温）、マスク着用、手洗い慣行。
- ・校舎内の換気の徹底、教職員による消毒活動。
- ・全クラスに空気清浄機とCO2モニターを設置。

○教育相談の充実

- ・校内特別支援委員会において、専門家をふまえた生徒理解のための研修。
- ・外部機関との連携を視野に入れた対応の検討。
- ・Q-U調査の結果分析。個々の生徒に合った指導方法・対応の確認。
- ・生徒の状況の情報共有。個々に適した指導や働きかけの確認。

○生徒の自治活動の奨励

- ・「上級生を見習う」を基本に、生徒たちが自主的に取り組む活動の助言・支援。

【学習指導について】

学習活動においては、通常登校とオンライン授業の選択制、コロナ不安による自宅待機をしている生徒に対するオンライン授業の実施等、教職員の努力と保護者の理解を得ながら学びを止めない学習指導を進めてきた。

このような状況の中、学校関係者評価アンケートにおいて「先生は、映像やタブレットなどICTを利用し、分かりやすい授業をしている。」の生徒の肯定的評価は 81.6%となっており、昨年度の同様の項目と比べ、10.1ポイント上昇している。また、「先生は、生徒にいていないに指導している。」の生徒の肯定的表は 91.3%と高い結果となった。厳しい状況下において、教員の授業改善の努力が生徒に伝わっていることが分かる。一方で、保護者の同様の数値は 52.4%、75.5%であり、生徒との結果に開きがある。これは、保護者が授業を直接観る機会がないことが一因と考えられる。同質問での「分からない」の回答が 30%、13%となっている。今後保護者の来校機会が確保された時の数値にも注目したい。

今年度本校で改善・努力した具体的な取組は以下のとおりである。

○家庭学習をする生徒のためのオンライン学習指導。

○少人数・習熟度別学習指導（数学・英語）、チームティーチング（理科・英語）による授業。

○校内研修

- ・教員の授業力向上、ＩＣＴ機器の活用、オンライン授業 他。
- ・全教員による PISA 型読解力の育成に向けた研究授業の実施。

○授業時間以外の学習の機会の提供

- ・放課後補習、土曜講習、検定対策講習、教師による朝・放課後の個人学習指導

○学び舎小学校との連携

- ・学び舎研修会

共通テーマ「PISA 型読解力の育成」を軸にした、研究授業及び研究協議会の実施。

- ・学習習得会議の実施。

学習習得確認調査の結果を基にした小中の枠を超えた、学習課題の検討と指導方法の共有。

【地域との連携】

地域との連携については未だ十分に行うことができていないのが現状である。しかしながら、可能な限りで、地域の方々の支援をいただくことができた。今後の見通しにも不透明さはあるが、できる限り地域の方々に関わっていただけるよう計画を立てていく。

学校関係者評価アンケートにおいて「学校からのお知らせ（学校だより）などにより、学校の様子が分かる。」の肯定的評価は 100%という結果であった。各行事や学校公開の際は現在もご来校についてはご遠慮いただいているが、学校に関心を寄せていただけていることは大変ありがたいことである。一方で「地域の人や施設を教育活動に活かしている。」の肯定的評価は 67.6%にとどまった。校外での活動や人材活用は現在も感染状況を鑑みながら行っている。この結果を受けとめながら、できる限り来年度以降も地域との連携をとり続けていく。

以下は今年度学校として取り組んできたり、支援を受けたりしたことである。

○C組家庭科授業支援

○ボランティア清掃での同行

○検定対策講習での受付作業

○部活動ステップ活性化委員会での各部活動の現状確認告及び部長との懇談会

○STEP 及び部活動における指導

5. 学校関係者評価委員会としての提言

(1) 学習指導について

コロナ禍にも関わらず、全ての項目で生徒の『肯定的評価』が80%以上であることは大変素晴らしい結果であり、4で記載した通り学校側の努力の賜物である。ICTについては生徒も保護者も昨年度に比べて肯定的評価が増加した。タブレット端末の活用が浸透している様子がうかがわれる。また昨年度は1-(3)「授業では、子どもの話合いや発表などの機会がある」の『肯定的評価』が1学年と2学年が90%以上であるのに対し、3学年は60%を割り込んでいたが、本年度は3学年も80%であり、コロナ禍ではあるが学習面に関して感染に留意してできる限り努力をしていた授業運営が評価されているものと思われる。来年度も引き続きコロナ禍での授業運営となるが、この2年間で蓄積したノウハウを活用して、生徒にとってより良い学習指導を行ってもらいたい。

(2) 生活指導について

保護者の肯定的評価は70%台と横ばいだったが、生徒の評価は増加し3項目とも80%となった。「思考力を育む」指導方針のもと、学習指導のみならず生活指導においても、日ごろからの思考や自主性を育む学校側の指導の表れと言える。引き続き継続的な指導を期待する。

(3) 学校行事について

ここ数年継続して、全体的に肯定的評価がとても高く、非常に好ましい状況である。コロナ禍で、以前同様の行事ができないために保護者の肯定的評価は若干減少したものの、生徒の評価はすべての項目で80%を超えている。例年同様の取り組みはできないものの、できる範囲で生徒に考えさせ納得感を得て行事を行っていることが、厳しい状況下での高水準の肯定的評価につながったと考えられる。引き続き、学校行事を通じて生徒の成長を促すよう、生徒の意欲を大事にした指導をしてもらいたい。

(4) キャリア教育について

進路や将来の仕事についての授業や情報提供について、生徒の回答では2,3年生の肯定的評価は1年生に比べて10ポイント以上高く、また昨年度に比べても増加している。中学生が将来のビジョンを明確に描くことはなかなか難しいと思われるため、生徒の社会的な経験不足を補う点で、引き続きキャリア設計や職業についての情報提供を始めとする授業や、先生と話し合える雰囲気づくりなどに力を注ぎ、キャリア教育について生徒が興味関心を示すような指導をお願いしたい。なお、保護者にはキャリア・パスポート自体の馴染みが薄いものと思われる。

(5) 教職員（先生）について

さまざまな設問から教職員は生徒との関係性の構築に努力をされていることがうかがわれる。「相談のしやすさ」についての生徒の回答は、肯定的評価が70%程度と、教職員が多忙を極めるために生徒も遠慮がちになっている面もあるが、そうしたなかで「丁寧な指導」の肯定的評価は90%を超えており、生徒一人ひとりに対して丁寧に話を聞くなどの対応が生徒の信頼を獲得

しているものと思われる。引き続き、生徒の機微を見逃さないように、親身な対応をお願いしたい。

（６）全般について

学校生活の楽しさや達成感については、保護者も生徒も肯定的評価は横ばいないし微減だが、いずれも 80%以上と高水準であり、大変素晴らしい状況である。

「(学び舎)の小学校(八幡小、九品仏小)との交流」については、この数年生徒の肯定的評価が徐々に増えてきたが、前年度と本年度はコロナ禍が影響した結果となった。保護者にも生徒にも本校での活動が徐々に浸透してきている局面であることから、いままでの努力を無にしないよう、環境改善後の活動を期待したい。

（７）部活動について

コロナ禍において、制約がある中での部活動であったが、楽しさや達成感について、保護者も生徒も肯定的評価はいずれも 80%以上と高水準であった。引き続き感染対策に十分に留意をした上での活動をお願いしたい。

（８）情報提供について

ホームページやメールでの情報提供については長年の努力が実り、昨年度は保護者・地域ともに初めて 80%を超え、今年度も保護者 90%、地域 85%とさらに浸透している様子がうかがわれる。引き続き、様々な機会を通じて広報活動・情報提供に力を注いでもらいたい。

（９）学校運営について

保護者について、昨年度は「学校の教育方針を伝えている」の肯定的評価が 80%を超えていたが、本年度は「9-(1)指導の重点を伝えている」との設問にかわり 65%と減少した点については、来年度の様子をみたい。地域については引き続き高水準であり、引き続き地域との対話により、近隣との良好な関係性の構築を図ってもらいたい。

（１０）家庭と学校との連携について

保護者の 9-(1)「本校は指導の重点を伝えている」と 10-(3)「私は指導の重点を理解している」で 20 ポイント弱の開きがあることから、一般論としてはさらにわかりやすく伝えてほしいという結論になるが、前述のように来年度の様子をみてから、この内容については検討したい。

（１１）地域との連携について

保護者も地域も、いずれの項目も 60%前後の肯定的評価であり、前年度に比べて減少している。コロナ禍で地域との連携の行事があまりできなかったことに起因するが、否定的評価は少なく、「わからない」が残りを占めていることから、コロナ禍あけの時期に再び活動が増える段階で、せっかくの活動を保護者や地域へ認知向上を図ってもらいたい。

（１２）学校の安全性について

前年度より実施されている改築・耐震補強工事により、施設面の安全性が確保されている。また、日ごろの避難所運営訓練の実施なども評価されている。ホームページ上に「大規模地震が発生した場合の対応について」、「安全対策」が開示されていることも安心感につながっているが、安全性には、施設・防犯・防災と、色々な要素が含まれるので、今後もそれぞれのきめ細やかな対策を継続してほしい。

以上